

アカザ *Liobagrus reini* Hilgendorf

【選定理由】

本種は清流に生息し、自然度の高い河川環境を好む。県内の河川における生息数も多くない。

【形態】

体長 10cm。体は赤褐色で腹部はやや白色を帯び、細長い。頭部は縦扁し、体の後部は側扁する。鱗は無く、側線は不完全。胸鰭と背鰭の第 1 鰭条は肥大して硬く、鋭い棘になっている。尾鰭の後縁はやや丸い。脂鰭は尾鰭に連続する。口ひげは前鼻孔部 1 対、上顎に 1 対、下顎に 2 対、計 4 対ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川を含む県内の主要な水系。

【国内の分布】

宮城県、秋田県以南の本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

河川の中・上流部の比較的水のきれいな流水域で、礫の多い河川に生息する。従来は自然環境が比較的に豊かだった九州、四国、中国地方でも河川中流域から姿を消しつつあり、分布域の減少や分断化は全国に及んでいる。本種は比較的小さく、夜行性で水底を滑るように泳ぐ。昼間は比較的大きい浮き石の下に潜む。水生昆虫を捕食する。産卵期は 5～6 月で、石の下に生みつけられた卵塊を雄が保護する。

【現在の生息状況／減少の要因】

河川中流域の生息地が消滅していることが多い。本来、群れをなすような種ではなく、個体数はずっと多くないが、近年減少が指摘されている。

【保全上の留意点】

河川の中・上流域の 30cm 以浅の礫質の平瀬や早瀬で見られることが多く、隠れ場所や産卵場所として適度な大きさの礫を必要とする。しかし、河川改修（流路の直線化、床固めなど）や土砂採取などによってこのような環境が消失するおそれがある。河川工事に際して、隠れ場所や産卵場所として利用される礫質の河床材料を残すことが重要である。

【特記事項】

河川工事で土砂が堆積すると礫間の空隙のみならず、餌生物も失われてしまう。胸鰭と背鰭の棘に毒がある。

【関連文献】

- 広島県（監），1995. 広島県の自然と野生生物，204pp. 中国新聞社，広島。
星野和夫・松尾敏生・細谷和海，1996. 九州におけるアカザの分布. 魚類学雑誌，43(2): 105-108.
森 誠一・名越 誠，1989. アカザ. 川那部浩哉・水野信彦（編），山溪カラー名鑑 日本の淡水魚，pp.410-411. 山と溪谷社，東京。
Watanabe, K., 1994. A note on the reproductive ecology of the torrent catfish, *Liobagrus reini* (Siluriformes: Amblycipitidae). *Japanese Journal of Ichthyology*, 41: 219-221.

(谷口義則)